

いしかわ総合スポーツセンター 中期経営目標

(実施期間 令和4年度～令和8年度)

令和4年3月 策定

1 施設の設置目的

本県におけるスポーツ振興の中核的拠点施設として、「競技力の向上」及び「生涯スポーツ社会実現」を図ることを目的としています。

2 施設の果たすべき役割

いしかわ総合スポーツセンターは、本県スポーツ振興の中核的拠点施設として設置したものであり、各種スポーツ大会の開催や科学的トレーニングの機能を有し、県内の各種スポーツ競技団体や地域スポーツクラブと連携を図りながら、本県の「競技力の向上」及び「生涯スポーツ社会の実現」を図ることを、その役割としています。

3 事業内容

(1) 全県的大会や全国大会等の開催

大会運営の効率化を図るための全県的大会の集中開催に対応するとともに、全国大会等の開催にも使用されています。

(2) 競技力向上を図るための科学的トレーニング、指導者養成・研修

選手強化を図るため、スポーツ科学に基づく測定・分析によるトレーニング処方の作成やトレーニング指導、スポーツ指導者の資質向上を図るための指導者養成・研修を実施しています。

(3) 生涯スポーツの振興

生涯スポーツ社会実現のため、アリーナ、トレーニングルーム、プールなど個人でも気軽に運動やスポーツに取り組める環境を整えるとともに、スポーツ初心者を対象としたスクールなどの自主事業を実施しています。

4 現状と課題

(1) 管理運営体制について

- ・いしかわ総合スポーツセンターでは、民間ノウハウを活用して、施設を効率的・効果的に管理するため、指定管理者制度を開館時（平成20年度）から導入しています。
- ・施設の運営、入場料の徴収及び

利用促進、施設・設備及び備品の維持管理及び修繕などの業務は指定管理者が行っており、当中期経営目標の実施期間である令和4年度から令和8年度までは、「石

川県体育協会グループ」を指定管理者として指定しています。

- ・県では、指定管理者による適切な管理運営を行うため、県と指定管理者による連絡会など随時開催し、管理業務に関する情報交換に努めています。

(2) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

- ・平成20年4月のセンターの開館以来、指定管理者の企画運営により、個人のニーズに応じた多様なプログラムを提供するなど、利用者の増加に取り組んできた結果、平成28年度には個人利用者は、開館時(平成20年度)の約2倍にあたる220,693人となりました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う施設の休館等の影響により112,960人まで減少しましたが、コロナ禍以前のように多くの方にご利用いただくため、自主事業の充実に努める必要があります。
- ・センターではこれまでも、インターハイ、バスケットボールやバレーボールの国内トップリーグ等の各種スポーツ大会が開催されています。また、大学の入学式・卒業式やコンサート等、スポーツ以外で利用されることも多く、引き続き大規模大会・イベントの誘致活動に努める必要があります。
- ・スポーツ情報発信の取組みとしてセンターのロビーに県関係者の有名スポーツ選手の使用品やサイン等を展示しているほか、ホームページやメールマガジン、SNS(インスタグラム、フェイスブック)での情報発信、センター周辺地域へのポスティングなどを実施しており、引き続き積極的な情報発信に努める必要があります。
- ・センターに備えている駐車場の収容台数は500台余と、大規模大会・イベントの開催時にはスペースが不足することもあることから、近隣施設と連携しながら、利用者が快適にご利用いただける環境整備に努める必要があります。
- ・全スタッフを対象とした個人情報保護法研修、接客研修、防災訓練、救急法等を定期的実施しており、引き続き利用者サービスの向上に努める必要があります。

(3) 施設運営の効率化について

- ・施設の維持管理については、安全・安心を第一に、利用者が快適に過ごせる環境を提供しているほか、照明や空調の効率的な管理による省エネルギーや節電への取り組みを実施しています。

5 中期経営目標

(1) 中期経営目標(指定管理者が実現すべき目標)

- ① 利用者については、5年間でコロナ禍以前と同程度の水準になるよう利用促進に努めます。
- ② 利用者アンケートによる満足度において、利用者サービスは引き続き95%以上を維持し、施設の維持・管理は95%以上を目指します。

(2) 測定指標と目標値

測定指標		基準値 (R1)	中間目標値 (R6)	最終目標値 (R8)
①利用者数		450,000人	360,000人	450,000人
②利用者アンケートによる満足度	利用者サービス	92.5%	95%	95%以上
	施設の維持・管理	95.1%	95%	95%以上

6 指定管理者が設定した目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

- ・楽しみながら運動する集団レッスン(ヨガ、エアロビクス等)やスポーツ上達を目指したスクール(テニス、水泳等)などの自主事業を開催し、利用促進に努めます。
- ・新たに、アスリートの底辺拡大を目的とした指導者や保護者を対象としたジュニア向け運動セミナーの開催(2~3回/年)や、平日の利用者の少ない時間帯を活用し、栄養士やトレーニング指導士などによる成人向け健康教養講座の開催、団体の体力測定を受け入れやすくするための団体測定枠の設置といった自主事業を検討し、一層の利用促進に努めます。
- ・一般の利用者を対象としたISC教養講座・特別講座などを開催し、実際に体験することで運動に関する知識の向上や必要性などを知ってもらうことで利用促進につなげていきます。
- ・地域の町会や婦人会の方々に体力測定の実施から運動の実践までのサポートを行い、近隣の地域に対する健康づくり事業の開拓を行っていきます。
- ・多くの全県的大会や全国大会・国際大会が開催されるよう、各種競技団体等を通じて積極的な誘致を図るとともに、大学の入学式・卒業式やコンサートなどスポーツ以外のイベントについても、これまでの使用実績をもとに多目的な利用を働きかけていきます。
- ・引き続き、ホームページやメールマガジン、SNS(インスタグラム、フェイス

ブック) を活用したタイムリーな情報提供に努めます。

- ・隣接する西部緑地公園内の陸上競技場、野球場、テニスコート、産業展示館などと連携し、催し物・イベント情報の共有による駐車場の相互提供など、引き続き、利用者が快適にご利用いただける環境整備に努めます。
- ・「危機管理マニュアル」に従った教育訓練を全スタッフに対して定期的を実施するなど、業務水準の維持・向上を図り、利用者の安全・安心の確保に努めます。
- ・自主事業参加者に対するアンケート調査や、センター内に設置する「アンケートBOX」により、幅広く利用者のご意見・ご要望を収集し、要望に対しては積極的に改善策を検討するなど、利用者サービスの向上に努めます。

(2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・施設を常に快適で安全にご利用いただくため、きめ細かい定期点検・定期清掃・保守・修繕作業を実施するとともに、引き続き照明や空調の効率的な管理に努めます。

参考資料(施設の利用状況など)

(1)利用指標(利用人数の状況)

(単位:人)

項目	H29	H30	R1	R2
利用者数	519,738	545,297	465,511	267,844

(2)使用許可等の状況

(単位:件)

項目	H29	H30	R1	R2
使用許可件数(団体含む)	7,726	7,589	7,095	5,664

(3)使用料の収入実績

(単位:千円)

項目	H29	H30	R1	R2
使用料(団体含む)	110,643	119,982	95,830	63,002